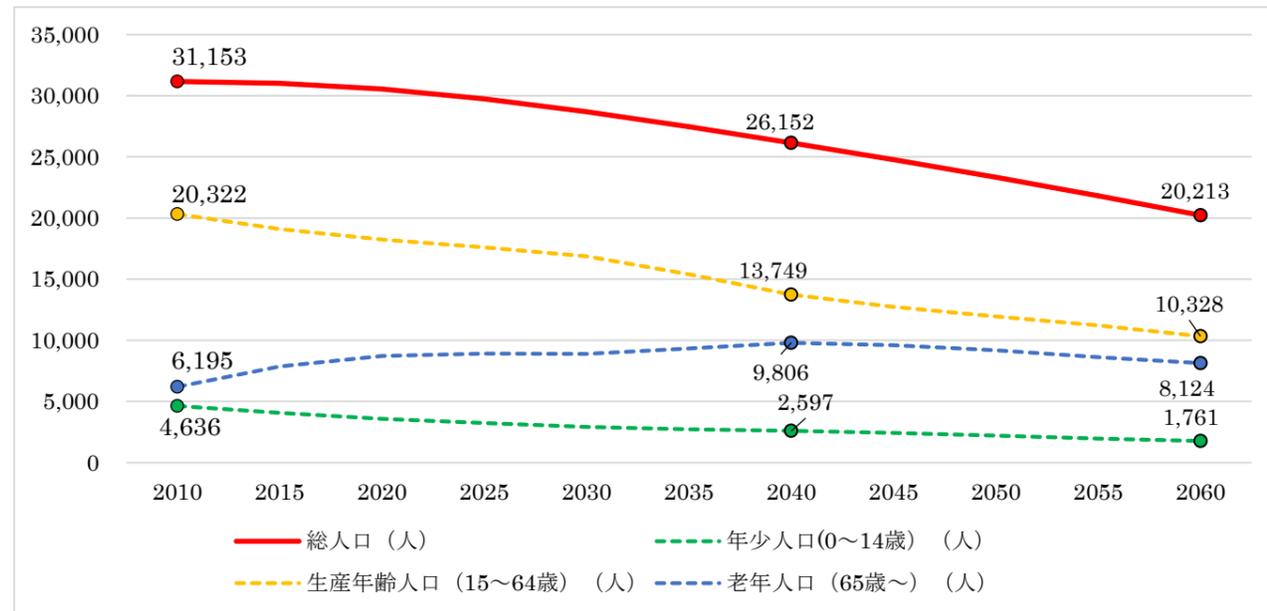


松伏町の人口の将来展望を定めるにあたり、アンケート結果や、ベースとなる社人研の推計などと比較・検討し、社会増減、自然増減の条件設定を定める。

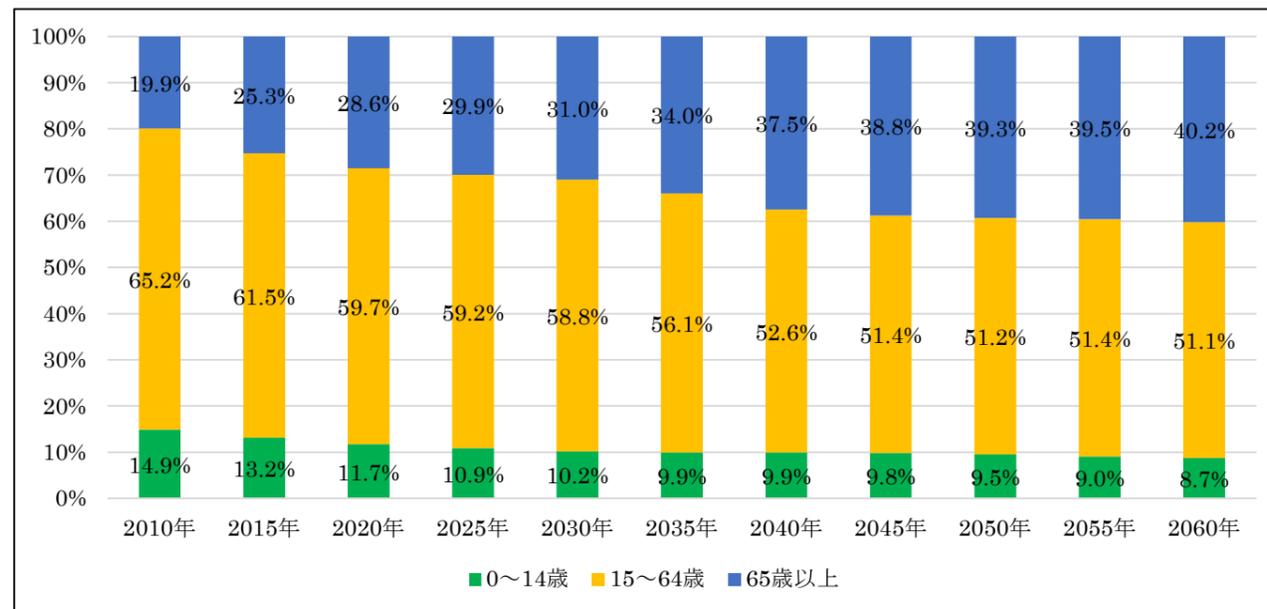
1. 国立社会保障人口問題研究所の推計 — 基準となる推計

国立社会保障人口問題研究所は、東京一極集中が是正されると仮定し、移動率を2020年までに定率で縮小させている。一方、出生率は横ばいで推移すると仮定している。

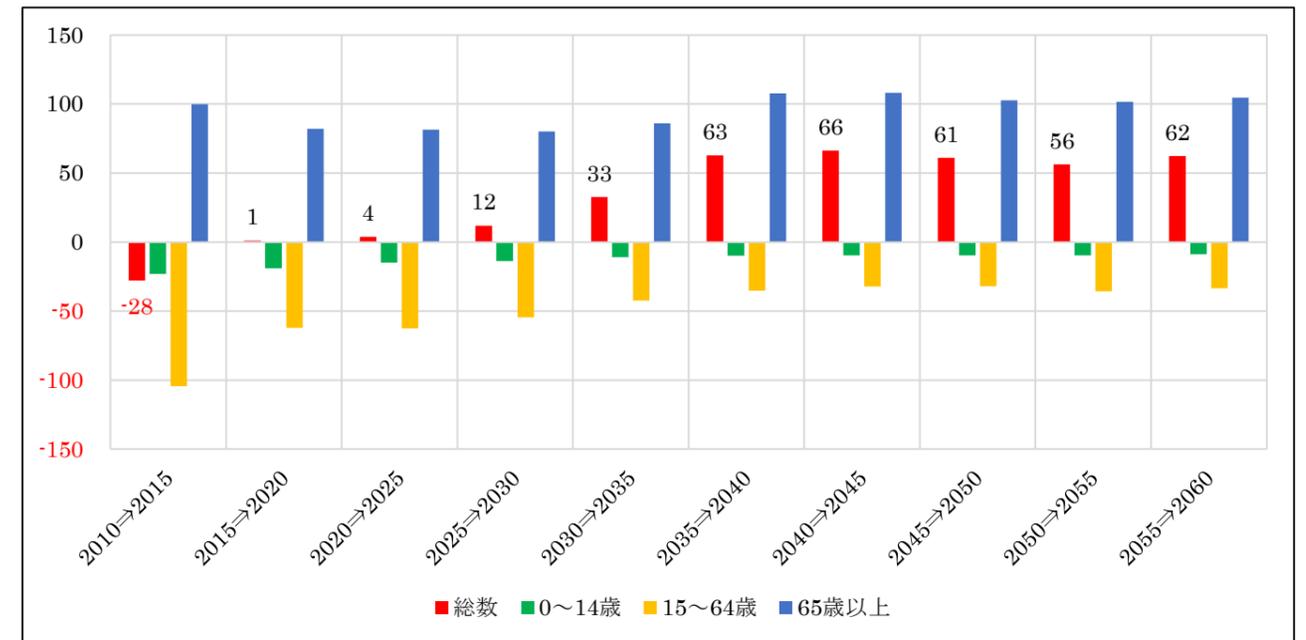
年齢3区分別人口の将来推計



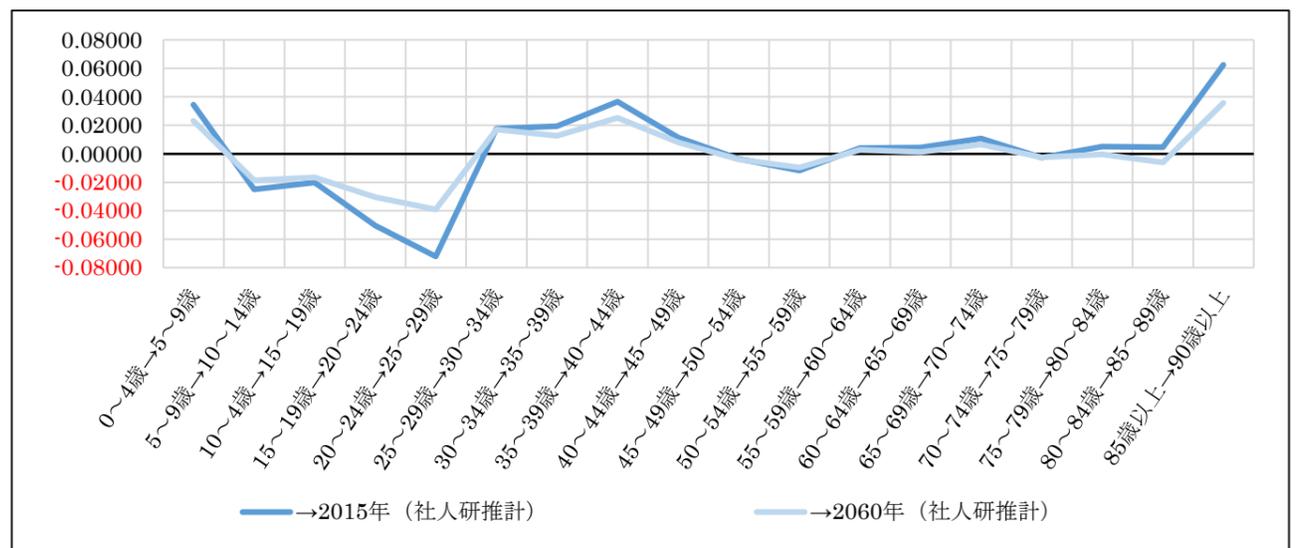
年齢3区分別人口割合の将来推計



2060年までの5年ごとの移動数の推移



年齢5歳階級別の移動率



・社人研の推計では、高齢人口の増加が大きく、2060年で40.2%と2.3人に1人が高齢者となると推計されている。また、20代での転出超過は2015年にかけて半分程度に減り、2060年までに10%以下にまで減少すると推計されている。転出超過は、2020⇒2025年にかけて転入超過へと転じ、その後も転入超過が継続する。  
⇒生産年齢人口及び、年少人口を増加させることで、高齢化率の増加を抑制するとともに、自然減を補うために社会増のさらなる加速が求められる。

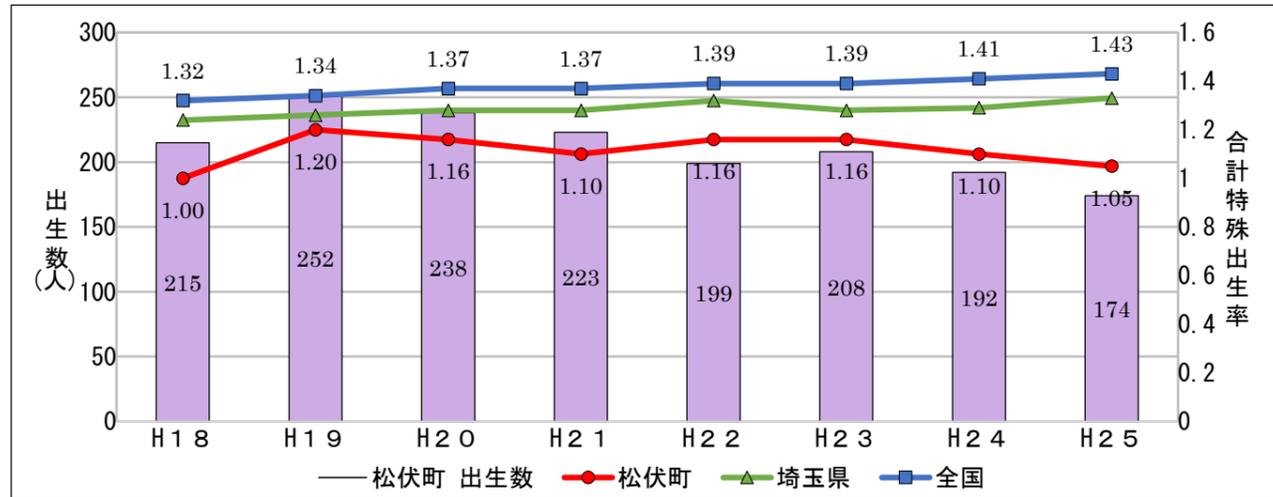
## 2. 出生率の改善度合いを検討

町民意識調査(H27)における希望する子どもの数は、調査結果(速報値)を基にした暫定値であり、最終結果で前後する場合がある。

社会移動が社人研(東京一極集中是正を仮定)と社人研よりさらに改善した場合において、出生率の改善をどの程度見込むか検討を行う。

町民意識調査における、50歳未満の希望子ども人数の平均値は、2.22人。

### 松伏町の出生数と町、県、国の合計特殊出生率の推移



ここで、移動率を固定し、出生率について、いくつかの上昇パターンを比較する。(仮定条件は下記。)

### 社人研の移動率からの改善度合い(1年あたり)※1

0~14歳⇒5~19歳の移動率	5.0%
15~24歳⇒20~29歳の移動率	2.0%
25~44歳⇒30~49歳の移動率	5.0%
45~64歳⇒50~69歳の移動率	3.0%
65歳以上⇒70歳以上の移動率	0.0%

移動率: A歳の人口に対する5年間の社会移動数の割合

$$\text{移動率} = \frac{\text{X年から5年間での社会移動数(転入-転出数)}}{\text{X年のA歳の人口}}$$

### 出生率の上昇パターン

移動率改善※1、県と同じペースで上昇した場合(2048年に2.07達成)

2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
1.05	1.20	1.35	1.51	1.66	1.81	1.96	2.07	2.07	2.07

移動率改善※1、県と同じペースで上昇した場合(2047年に2.07、2053年に希望出生率2.22達成)

2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
1.05	1.20	1.35	1.51	1.66	1.81	1.96	2.07	2.22	2.22

移動率改善※1、長期ビジョンに追いつくように出生率が上昇した場合

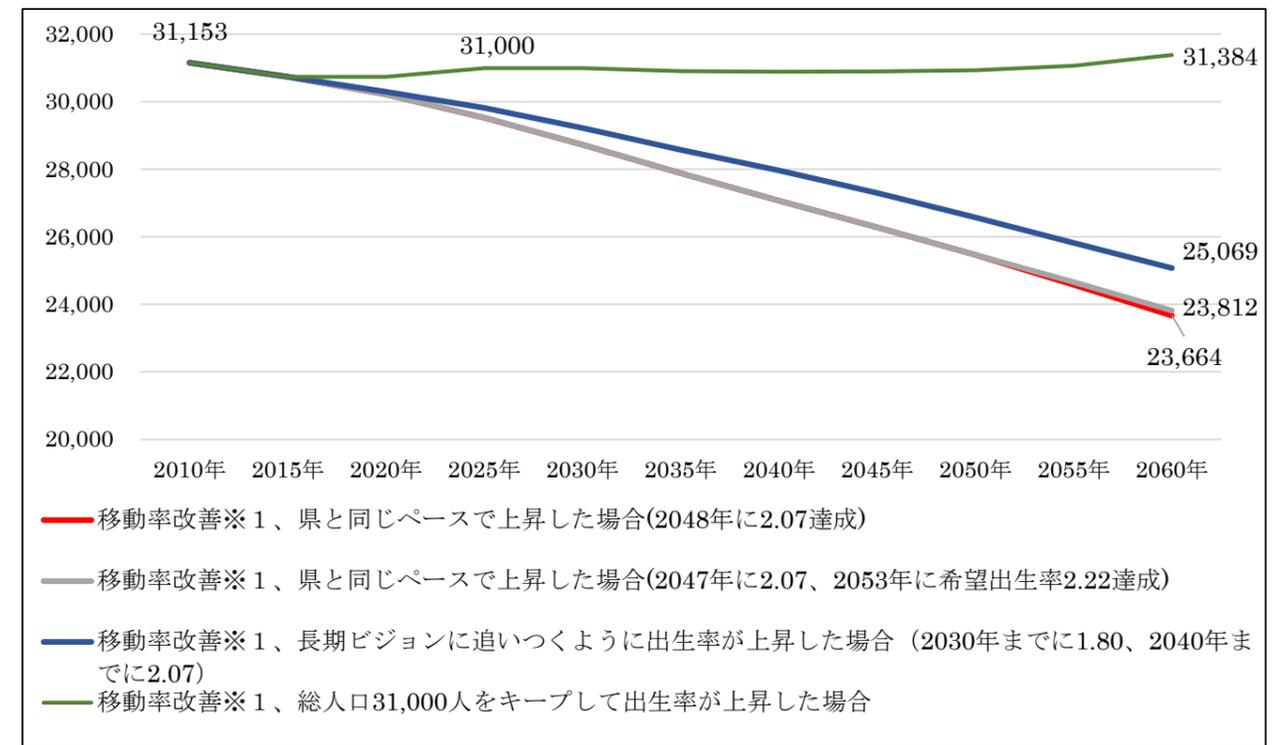
(2030年までに1.80、2040年までに2.07)

2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
1.05	1.30	1.55	1.80	1.94	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

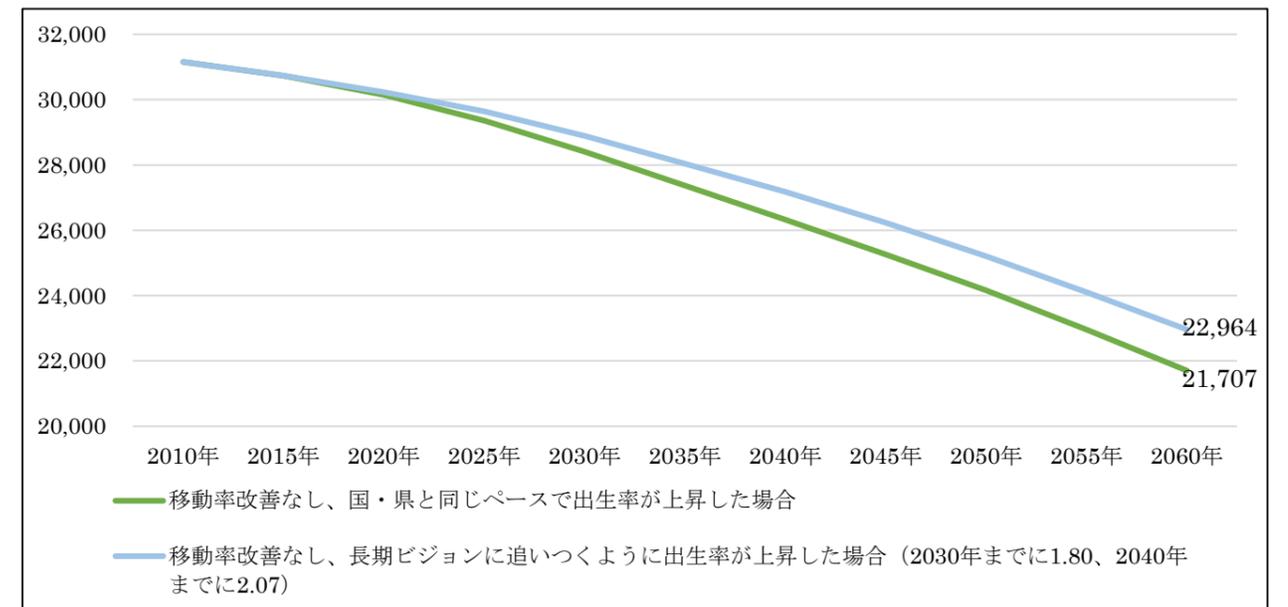
移動率改善※1、総人口31,000人をキープして出生率が上昇した場合

2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
1.05	1.86	2.67	2.67	2.67	2.67	2.67	2.67	2.67	2.67

### 各パターンにおける総人口の将来推計の比較



### ※1の移動率の改善が0%で、「東京一極集中是正」を仮定した)社人研推計における移動率と同様の場合



・出生率は、バラツキはあるものの平成15年の1.20から徐々に増加している。また、町民意識調査(H27)において、欲しい子どもの数を調査したところ、全体の平均で2.22人という結果となった。国の長期ビジョンでの目標出生率、国の人口規模を維持するための出生率が2.07であることを勘案する。  
⇒出生率の上昇は県の長期ビジョンに合わせたペースで上昇を期待すると、2048年に2.07、2053年に2.22を達成する計算となる。

### 3. 松伏町の人口の将来展望

2及び3で行った、出生率、移動率の検討を踏まえ、下記の将来展望はどうか。

#### 社人研の移動率からの改善度合い（1年あたり）

0～14歳⇒5～19歳の移動率	15～24歳⇒20～29歳の移動率	25～44歳⇒30～49歳の移動率	45～64歳⇒50～69歳の移動率	65歳以上⇒70歳以上の移動率
5.0%	2.0%	5.0%	3.0%	0.0%

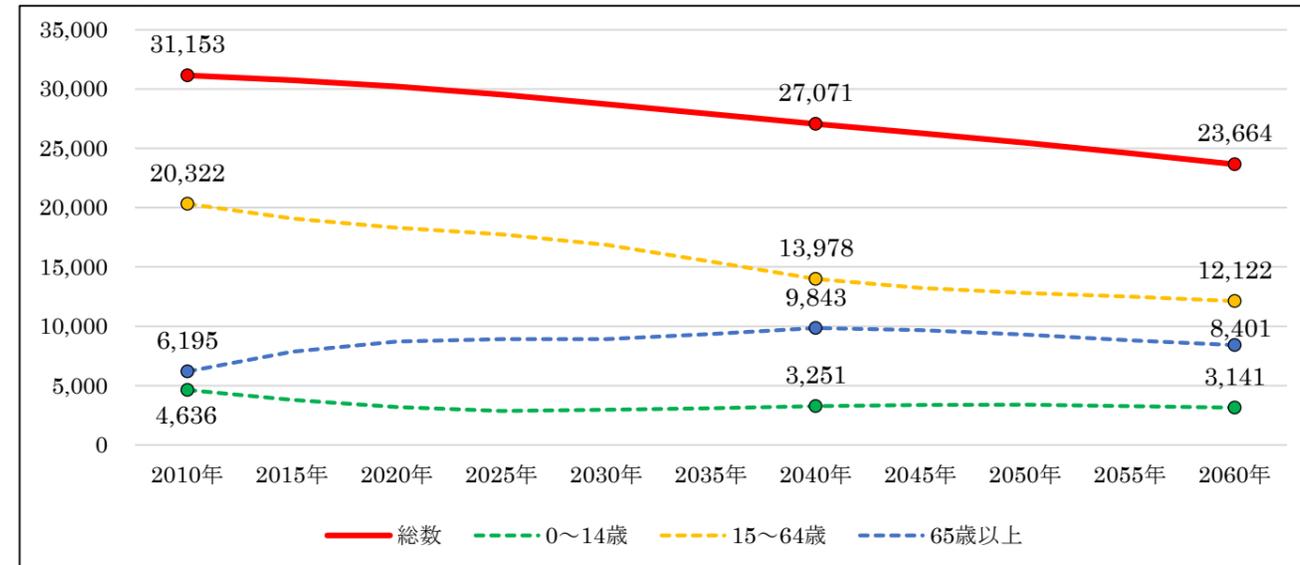
#### 出生率の上昇パターン

移動率改善※1、県と同じペースで上昇した場合(2048年に2.07達成)

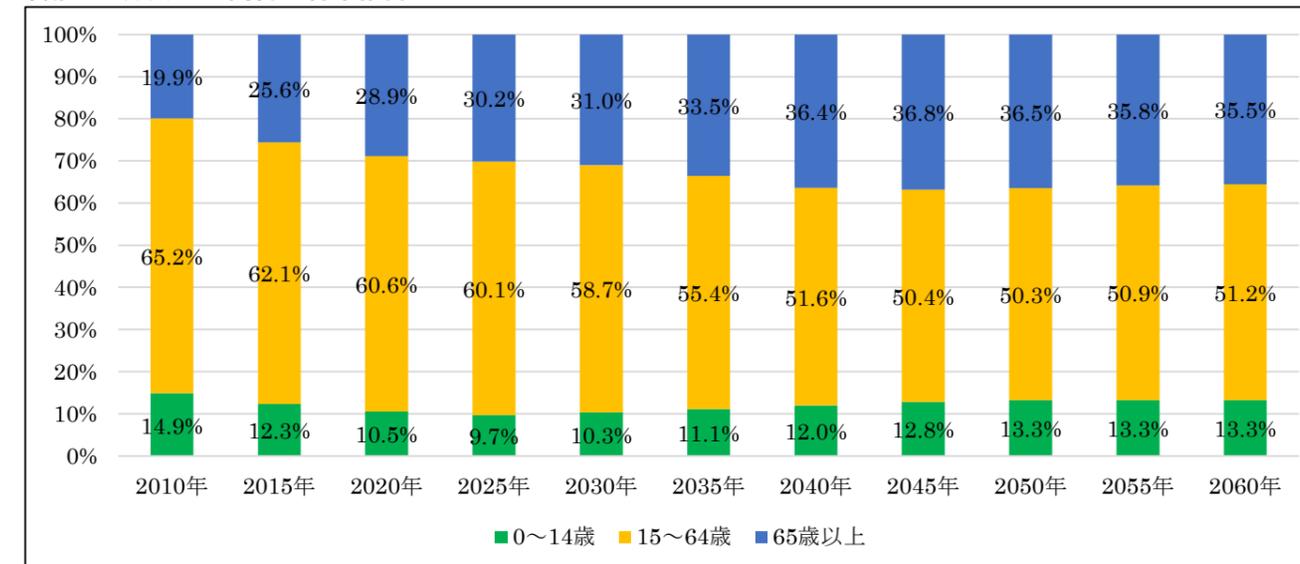
2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2048	2055	2060
1.05	1.20	1.35	1.51	1.66	1.81	1.96	2.07	2.07	2.07

これらを踏まえて、推計を行うと以下ようになる。

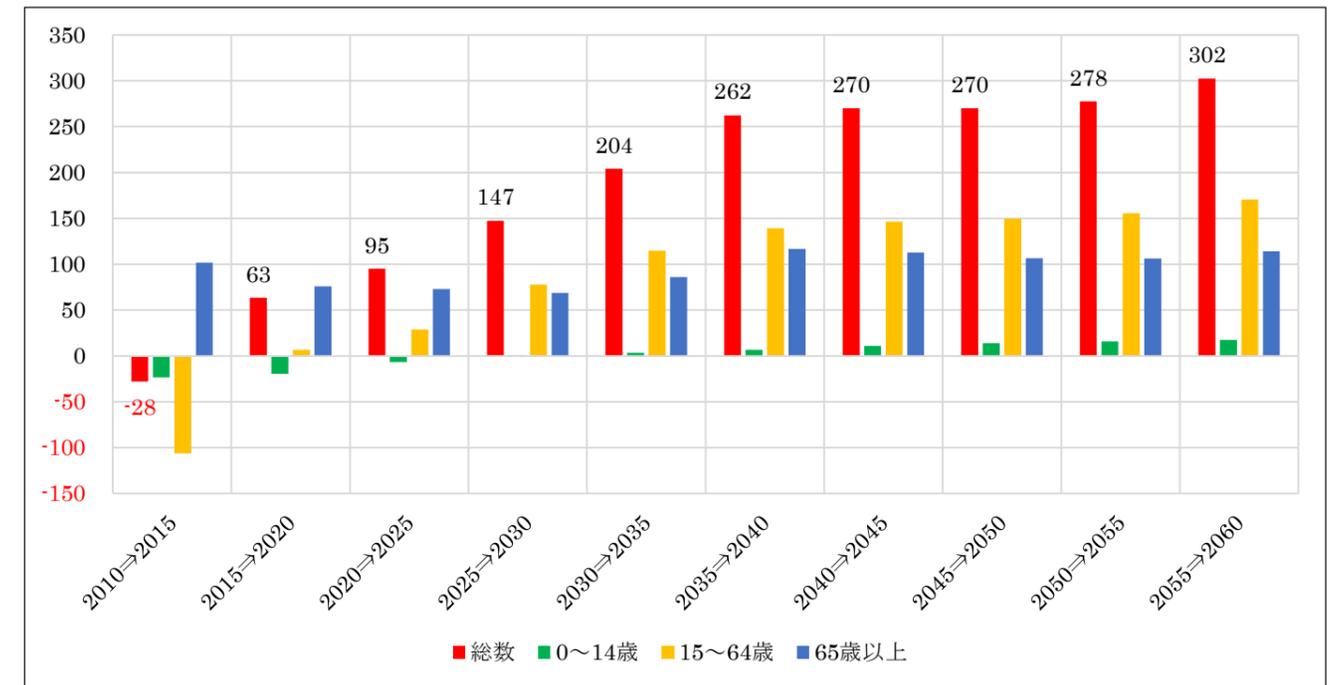
#### 年齢3区分別人口の将来推計



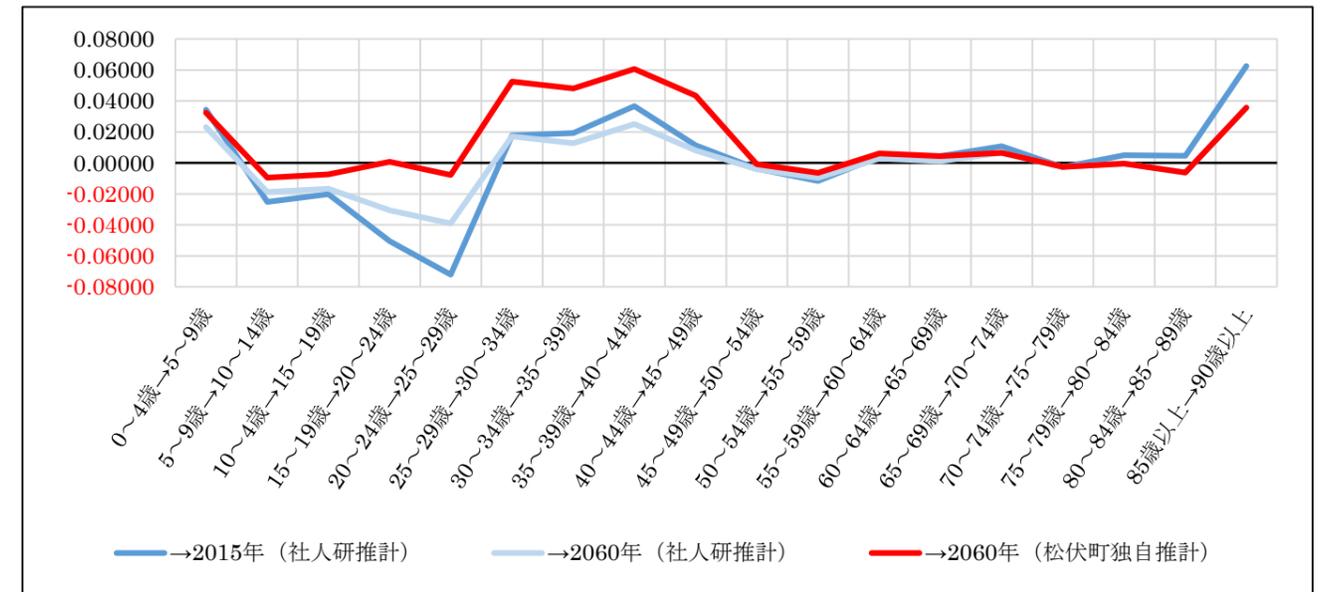
#### 年齢3区分別人口割合の将来推計



#### 2060年までの5年ごとの移動数の推移



#### 年齢5歳階級別の移動率



・2で比較した結果を踏まえ、松伏町の目標として設定する出生率、移動率、また、それらを基にした将来人口の展望を検討すると、ここで示す増加率が妥当ではないかと考えられる。  
⇒増加率、2060年の目標人口について、ここで示す数値が妥当であるか検討する。